

# 看護実践・キャリア 支援センター通信

2018年  
3月

## 看護基礎教育

### 看護学科学生へのキャリアデザインプログラム

Vol.13

本年度は宇都宮宏子先生をお招きして「病院の時代から地域包括ケアの時代へ」～夢を持って看護を語っていますか～と題して看護学科の1年生と4年生、看護部職員等を対象に講演会を行いました。講演の中では、超高齢者の時代を迎えるにあたり、病院では「患者」であるが、地域では「生活者」であるということ、退院後はどう向き合い地域で暮らし続けられるか、どんな暮らしを望んでいるかを考えることの大切さとともに、人間の尊厳ある死（QOD）やアドバンスケアプランニング（ACP）についての説明もありました。アンケート結果から、学生は身内に思いを馳せ、熱心に聞き入るとともに、自分の将来について在宅医療も選択肢の一つとして広がったとの意見が多く見られました。これから看護師として働く時に繋げていかれることを切に願います。

#### 講師 宇都宮 宏子（在宅ケア移行支援研究所宇都宮宏子オフィス代表）先生の御略歴

1980年京都大学医療技術短期大学看護学科卒。医療機関で看護師として勤務後、高松の病院で訪問看護を経験し在宅ケアの世界に入る。92年京都の訪問看護ステーションで勤務、病院から在宅に向けた専門的な介入の必要性を感じ、2002年京大病院で「退院調整看護師」として活動、12年より現職。現在は、医療機関の在宅移行支援、地域の医療介護連携推進、在宅医療推進事業研修・コンサルテーションを中心に活動されています。



## 看護基礎教育

### 3年生対象：看護部スタッフとの懇親会

平成30年2月23日（金）午後5時20分から学生・職員食堂 ROYAL において総勢110名参加の下、行なわれました。初めに高橋センター長から「キャリア発達について」講演がありました。アンケートから「キャリアとは一人一人が成長していくことであって立場などでは決定されないと聞いて自身も成長していけたらいいなと思った。」との回答があり、改めて「キャリア」という事に真摯に向き合う機会となったようです。その後は、各グループでディスカッションを行い、第2部では関心のある病棟のブースに分かれて話をしました。時間はあっという間に過ぎ、飯田副センター長より冬季オリンピックの「チームパシュート」の例より「一人一人はオランダのチームの方が上だったが、チームで金メダルを勝ち取ることができた。ここにいる仲間と一緒に頑張る全員で国試合格しよう！」と士気を高めて頂いて終了しました。



## 看護実践教育

### 「対人援助の基礎知識・技術」

#### 「対人援助の基礎知識・技術」グループスーパービジョンコース

看護学科精神看護学の奥田淳先生を講師に、看護主任 9 名と看護学科教員 1 名の参加の下、ベーシックコース、アドバンスコースを経てグループスーパービジョンコースを修了されました。3 コースを通して数々の対人援助方法について学ばれました。アンケートからは「実際の事例を通じた学習が、少人数で行うことができたので、具体的な考え方について考え、明らかになった。実際の臨床場面での活用については難しいことも多い。」「自信はまだないが今後活かしていきたい。」等の意見が見られました。看護主任対象のこのコースは今年度で終了します。参加された看護主任・教員の方々が、本コースで学んだことを少しでも現場で活用頂けることを願っています。

#### 「対人援助の基礎知識・技術」ベーシックコース：臨床実習指導者対象

～受講生から感想をいただきました～



臨床の場において、患者やその家族と関わる機会が多くあります。その中で信頼関係を築く為に意識して関わりを行っていますが、今まで行ってきた対人援助の経験を活用しているのみで、具体的にどのように行えば良いのか知識と技術の理解が出来ていないと感じていました。今回研修を受ける事で座学により対人援助のカウンセリング技術や心の構造と機能、心の発達・成長について学びました。

カウンセリングでは純粋な気持ちで対象者と関わり、肯定的配慮を持ち共感的に理解した内容を対象者に伝える事が大切だと知る事が出来ました。また、カウンセリング技術の演習を行い客観的に評価される事で、今まで行っていた対人援助の方法を振り返る機会になりました。肯定的な意見を頂いた時は、今まで行ってきた対人援助に自信を持てるようになりました。この内容を臨床実習指導者として今後の指導に活かしていきたいと思います。

## 看護基礎教育

### 実習指導者と看護学科教員との交流会



平成 30 年 3 月 9 日（金）17 時 45 分から学生・職員食堂 ROYAL にて、教員 19 名、実習



指導者 51 名の参加がありました。高橋センター長からの講話のあと各テーブルではお互いの交流や情報交換が進み、実習における連携の方法や新しい気づきがあったと発表されていきました。昨年 10 月より、

就任された精神看護学の風間眞理教授より、学生にとっての臨床実習は、将来（進路）を左右するほど重要であり、その後の学習へのモチベーションを維持していく上で、大変大事な場であるというお話をいただきました。今後とも、教員と実習指導者が協同して、学生の教育を支援頂きたいと思

## 看護基礎教育

### 卒前看護技術トレーニング研修

平成 30 年 3 月 14 日（水）9 時から看護学科 4 年生で奈良医大附属病院へ就職される方を対象に講演会・先輩看護師との交流会とバイタル測定技術演習を実施しました。



久しぶりの白衣姿で、患者役の先生方への声かけ、検温を行い、緊張もありながら、4 月からの看護師として働くイメージを感じてもらえたようです。先生方から、一人一人のよいところ、強みを意識できるよう、振り返りを行って頂きました。学生にとっては、自信につながることもあり、自分自身のコミュニケーションを振り返る機会となったと思われます。交流会では、看護部の新人看護教育担当の米川看護師と 4 人の先輩看護師の経験談を聞き、入職に向けての心構えができたようです。



最後に石澤先生より「人生に無駄はない」「石の上にも 3 年」との励ましのお言葉を頂きました。4 月の看護師デビューを応援しています。



## 地域貢献

### 「がん看護コミュニケーション研修」「がん化学療法看護研修」「摂食嚥下障害看護研修」

#### がん看護コミュニケーション研修（平成 29 年 12 月 16 日（土）12 名で実施）

がん患者とのコミュニケーションの基礎についての講義後、ロールプレイをしながら受講者とファシリテーターがともにコミュニケーションを考えていく相互交流型の演習を行いました。アンケートからは、「普段なにげなく行っているコミュニケーションには様々な技法が含まれていること、意味を理解する事が出来ました。自分の思いをどう伝えるか、相手の思いを知る為にとっても貴重な研修を受けることが出来ました。今後活かしていこうと思います。」という意見と共に、ロールプレイを通しての学びがとても良かったとの感想をいただきました。

#### がん化学療法看護研修（平成 30 年 1 月 13 日（土）19 名で実施）

～受講生から感想をいただきました～

今回の研修では、抗がん剤の基礎知識と具体的な暴露対策方法について学ぶことができました。自身の振り返りとともに自所属の課題を考える機会となりました。また、日頃感じている疑問や悩みについて、講師の方々や他部署・他施設の方と一緒に話し合うことができ、とても楽しい研修でした。

今後もこのような研修に積極的に参加し日々の看護ケアの振り返りと最新の知識・技術の修得に取り組んでいきたいと思ひます。



スヒル時の対処

#### 摂食嚥下障害看護研修（平成 30 年 2 月 3 日（土）21 名で実施）

～受講生から感想をいただきました～



口腔ケア演習

午前中の講義では、今までの学びを復習する機会となりました。午後からの演習では、食事介助で患者役を体験し、スプーンの大きさや、口に入れる角度など、日頃自分が行っている方法が患者さんに不快な思いをさせている事に気付きました。また、口腔ケアも行い、自分の手技を相手の方に評価してもらうことで、改善点を知ることが出来ました。このような演習が初めてであり、学びが多く、今後のケアに活かしていきたいと思ひます。



## 看護実践教育 特定行為研修 説明会

平成 30 年 1 月 31 日 18 時から第一臨床講義室にて行なわれました。昨年の第一回の説明会は 64 名の参加でしたが、今回は 53 名の参加がありました。初めに高橋センター長よりお話があり、続いてクリティカルケア CNS 養成課程および周麻酔期看護師養成課程の説明を石澤看護学科教育部長と川口麻酔科学教授から頂きました。その後、特定行為研修修了生 3 名から「特定看護師の位置づけと研修の概要」「特定行為の活かし方」「特定看護師に必要な能力」についてそれぞれ報告がありました。発表者の熱のこもった講演が続いたため、質疑応答の時間が取れませんでした。アンケート結果からは、「特定行為研修」について内容まで知っているとの回答が、前回の説明会より微増しており、徐々に理解が広がっている様子が伺えました。また、特定行為研修に参加したいが、「経験年数が浅いから不安である」や「経済的に不安がある」との意見もありました。



また、チェンマイ大学病院研修後の報告も行なわれました。「チェンマイ大学の研修派遣や受入れ」については興味・関心があるとの回答が 60% 近くあり、6 月の受入れ時において協力して下さる意思のある方は記名の 5 名ほか無記名で 3 名ありました。



## 看護実践教育 第 2 回 育児休業取得者への復職支援サロン

平成 30 年 1 月 17 日（水）に E 棟 5 階多目的室にて復職希望者 9 名参加のもと行われました。「参加して良かった」との意見が多かったですが、開催時期を考慮してほしいとの意見もあり今後の開催の参考にしていきたいと思います。

## 今後のセンター事業

☆「発達障害を持つ人への理解と対応」

日時：平成 30 年 5 月 12 日（土） 9:20～15:00 講義とコンサルテーション

場所：厳櫃会館 3 階 大ホール

☆「認知症予防および認知症を持つ患者への対応力向上研修」

日時：平成 30 年 6 月 30 日（土） 10:00～15:00

場所：厳櫃会館 3 階 大ホール

☆チェンマイ大学の研修派遣受入れ

日程：平成 30 年 6 月 5 日（火）～6 月 22 日（金）

研修の際には、ご協力のほどよろしくお願いたします。

